

品目	規格・単位	薬価	薬価基準収載 医薬品コード	一般名	会社名*1	効能・効果	用法・用量*2	分類	規制	発売予定
<内用薬> セベラマー塩酸塩錠400mg「G」 セベラマー塩酸塩錠800mg「G」	400mg 1錠 800mg 1錠	39.00 57.30	2190025F2024 2190025F3020	セベラマー塩酸塩	中外	下記患者における高リ血症の改善 透析中の慢性腎不全患者	成人には、セベラマー塩酸塩として1回1～2gを1日3回食直前に経口投与する。 なお、年齢、症状、血清リ濃度の程度により適宜増減するが、最高用量は1日9gとする。	219	処方	7月中旬 5月24日
ツインラインN F 配合経腸用液	10mL (混合調製後の 内用液として)	9.60	3259117S1020	経腸成分栄養剤	EN大塚 =大塚工場 =大塚製薬	一般に、手術後患者の栄養保持に用いることができるが、特に長期にわたり、経口的食事摂取が困難な場合の経管栄養補給に使用する。  度は75～125mL/時間とする。経口摂取可能な場合は1回又は数回に分けて経口投与することもできる。 また、投与開始時は、通常1日当たり400mL(400kcal)を低速度(約50mL/時間)で投与し、臨床症状に注意しながら増量して3～7日で標準投与量に達するようにする。 なお、年齢、体重、症状により投与量、投与濃度、投与速度を適宜増減する。	A液200mLとB液200mLを用時混合し、成人標準量として1日1,200～2,400mL(1,200～2,400kcal)を鼻腔チューブ、胃瘻又は腸瘻より胃、十二指腸又は空腸に1日12～24時間かけて投与する。投与速度は75～125mL/時間とする。経口摂取可能な場合は1回又は数回に分けて経口投与することもできる。 また、投与開始時は、通常1日当たり400mL(400kcal)を低速度(約50mL/時間)で投与し、臨床症状に注意しながら増量して3～7日で標準投与量に達するようにする。 なお、年齢、体重、症状により投与量、投与濃度、投与速度を適宜増減する。	3259	—	未定
メインテート錠0.625	0.625mg 1錠	26.60	2123016F3029	ピロゾロロルマル酸塩	田辺三菱			2123	処方	未定
ラコールN F 配合経腸用液	10mL	9.10	3259118S1024	経腸成分栄養剤	EN大塚 =大塚工場 =大塚製薬	一般に、手術後患者の栄養保持に用いることができるが、特に長期にわたり、経口的食事摂取が困難な場合の経管栄養補給に使用する。  経口摂取可能な場合は1日1回又は数回に分けて経口投与することもできる。 また、投与開始時は、通常1日当たり400mL(400kcal)を水で希釈(0.5kcal/mL程度)して、低速度(約100mL/時間以下)で投与し、臨床症状に注意しながら増量して3～7日で標準量に達するようにする。 なお、年齢、体重、症状により投与量、投与濃度、投与速度を適宜増減する。	成人標準量として1日1,200～2,000mL(1,200～2,000kcal)を経鼻チューブ、胃瘻又は腸瘻より胃、十二指腸又は空腸に1日12～24時間かけて投与する。投与速度は75～125mL/時間とする。	3259	—	未定
<注射薬> ハーセプチン注射用60 ハーセプチン注射用150	60mg 1瓶 (溶解液付) 150mg 1瓶 (溶解液付)	23,885.00 56,003.00	4291406D3021 4291406D4028	トラスツマブ (遺伝子組換え)	中外	・HER2過剰発現が確認された転移性乳癌 ・HER2過剰発現が確認された乳癌における術後補助化学療法 ・HER2過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌	詳細は添付文書をご覧ください。	4291	生物 処方	未定

\*1 会社名中、2社以上の表記については、前社が製造販売承認取得会社、後社は販売会社であることを示します(従来のハイフン表記は平成17年4月の改正薬事法施行を機に廃止しました)。

\*2 一部省略してありますので詳細は添付文書等をご確認ください。